

テーマ「感染症対策を踏まえた働き方改革」

視点１ 行政との連携や働きかけ

- ・働き方改革については、今年度、市校長会が中心となって、市教育委員会に改善していただきたい内容を整理し、行政との協議を行った。具体的には、①給食の公会計化、②就学援助の手続き、③部活動指導員制度の設定、④英語検定補助の手続き、⑤ヘルメット補助金の申請手続きを、行政と連携して取り組む重点５項目として検討していただいた。

その結果、①給食の公会計化以外については、次年度から行政側でほとんどの業務を担当していただける方向で検討が進められている。

また、これまでの成果として、次のようなことがあげられる。

- ・体温チェックのアプリの導入
- ・タイムカードの導入
- ・校務支援システムの導入による諸帳簿の電子化。特に、指導要録の電子化。
- ・留守番電話の設置
- ・オンラインによる研修が増えたことで、出張の回数が少なくなっているので、今後もこの方向は維持していけると良い。

しかし、校長会のような研修は、対面であればオンラインにない良さがあるため、対面での研修と行政によるオンライン研修を上手く使い分けていけると良い。

視点２ 自校での取組

- ・午後８時以降に残って仕事をする場合には、管理職に何をするために残るのかを申告するようにしている。その内容を管理職が分析し、分担できるもの、削減できるもの等、検討して、業務の効率化・削減につなげ、超過勤務時間を減らせるようにしている。
- ・教頭を中心として、働き方改革推進委員会を組織し、若手の意見を吸い上げ、超過勤務の原因となっている仕事について検討し、残業時間を減らせるようにしている。
- ・定時退勤日を設定し、月に何回等の目標をもって取り組んでいることで、かなり職員には意識化が図られている。
- ・時間割を工夫することで、下校時刻を繰り上げ、教材研究や事務処理ができるような時間を日没前に設定できるようにしている。

また、掃除を１週間に２回とすることで、部活動開始時刻を早くした。夏は早めに下校できることで職員の事務処理の時間が確保でき、冬は少しでも部活動のできる時間を確保することにつながっている。

視点３ 次年度の取り組みたいテーマ

「部活動指導員の導入による、教員の部活動での負担減」